

人生ハンド仏句

第59号

H. 19. 2. 1
(毎月1日発行)

お題目に巡り会えた
ご縁を大切に

住職 谷川寛俊

法華經の第二章方便品の中でお釈迦様は、「全ての仏様は、みな共通した一大目的のもとに世に出現されるのである。その目的とは、ただひとえに法華經によつて人々を悟りの世界へと導く事に尽きるのだ。」といった趣旨の事が述べられ、さらに「私の当初からの願いは、ただ一切の人々を浄土へ導いて、私と同じで異なるところがないようにしてあげたいということであった。遂にその願いが達成する時が来た。今はすでに満足である。いよいよ法華經を説き示して人々を成仏への道に入らせることが、

出来るようになったからである。」とあります。法華經を説ける時期が到来してご自身の究極の目的が達成しようとしている喜びを語つておられるのです。成仏の教えが法華經に限ることと、その成仏の教えである法華經を示すことが全ての仏様の目的であったことが分かります。ところがその法華經には「常に、教えを頂戴する手段として、ひたすら信じて『南無』することしかない。」という内容が繰り返されています。以上によつて、私達が成仏する手段は「南無妙法蓮華經」のお題目しかないということ、従つてお題目は全ての仏教經典の目的であり、究極の結論であつた訳です。つまり全仏教を突き詰めるとお題目に帰結するという事であり、私

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjyoujitoyama108/>

達が法華經に巡り合える確率は億万分のどこころではありません。お釈迦様はそれを三千年に一度しか咲くことのない優曇華(うどんげ)の花に巡り合う確率に譬(たと)えられ、また大海に住んで百年に一度しか水面に浮かび出ることのない片目の亀が、漂(ただよ)つていて一つしかない浮き木の穴に入る事の出来る確率にも譬(たと)えられておられるほどです。法華經に巡り合える確率がこのようにわずかなのだから、お題目に巡り合える確率が更にわずかであります。大聖人曰く、「人として生まれ、法華經・お題目を正しく信じていることが出来る者となれる割合は、大地全体の土の中の爪の上に乗せる事が出来る土の量の割合に匹敵するほど稀(まれ)

なのだ」
(開目抄・報恩抄より取意)と述べられておられます。

私達は、過去世からの因縁で有り難くも、この法華經、お題目との出会いは大変貴重な物です。正に成仏への切符を手にした人です。

この稀なる出会いを無駄にして来世で悔やむことのないよう、よくよく心してお題目に励んでいただきたいと念願します。

南無妙法蓮華經
南無妙法蓮華經
南無妙法蓮華經

